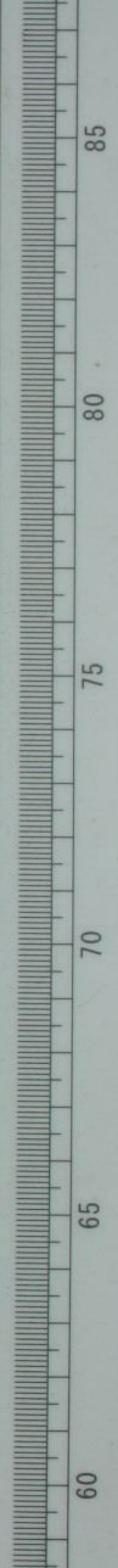


扁額軌範
二篇中

子 4
181
3



後
181
3



額軌範三之卷目錄

目錄

土佐坊昌俊之圖

紙園社并旅所之圖

○古代糸物之圖

○乳母日傘之圖

○延宝年間之店例の圖

○江者屋入り之圖

○僧覆面編笠之圖

○豪物店之圖

○古代牙僧婦之圖

北野

長谷川等伯画

○横二間壁之圖

紙園

○孝者之圖

○横四間壁之圖

○同駕籠之圖

○古代之絃海老尾の圖

○同擔幕の圖

○醫師の圖 ○小枝箱の圖

○女編笠の圖

○糸屋丸行燈の圖

○土弓之圖



慶長拾三申曆
六月吉祥日



自雪舟五代
長谷川法眼等伯筆

奉掛
御神前



百ノ一

の下地等がわがしに中地の変更の義經の鎧を押寄、岡を以て
責むる義經其夜を酒を碎く、階居より下り、白拍子、舞を習
き、女を、岡を以てより、糧を取出し、義經の女を、義經の破れ
あは、退教せし、まへも、皆宿所、帰して、居た、義經を、信收一人
、結とく、義經防ぐ、難きを、を、許さく、あつ、河、飯、女、あ、は、衣、門、は、い
、子、款、押、寄、の、う、と、安、長、刀、以、振、て、討、て、う、款、此、強、を、岡、に、田、原、之、序
、岡、八、郎、伊、勢、三、郎、兼、平、六、郎、佐、友、四、郎、之、信、就、馬、尾、之、郎、俊、友、平
、四、郎、信、友、此、方、より、来、り、て、佐、友、の、勢、中、刻、々、入、難、也、。、佐、友、を
、其、力、を、振、て、ち、佐、友、の、馬、を、切、断、て、佐、友、を、生、捕、り、奔、業
、を、大、藏、と、囚、り、て、ち、佐、友、後、才、伊、方、五、郎、盛、直、以、生、捕、り、佐、友、昌、俊
、を、討、て、仕、扱、し、一、法、派、多、く、討、て、僅、七、人、に、り、て、鞍、馬、小、倉、久、信、心
、が、谷、小、倉、久、信、を、就、尾、尾、に、見、せ、し、希、ま、に、生、捕、り、。、小、倉、河、久、信、

首を刎らるる

去依房昌俊二階堂と云、以谷金王丸、大和國の住人、孝良法師なり。
當國針の庄、西金堂、油料、あり。代、友、小、河、四、郎、遠、大、興、福、寺、の
律師、快、き、を、信、の、年、貢、所、を、押、止、め、西、金、堂、に、款、討、つ、堂、流、昌
、俊、を、う、く、の、針、の、庄、女、を、く、遠、大、興、夜、討、り、快、き、昌、俊、を、取、金、電、春、日
、の、神、本、以、振、り、て、奉、回、せ、し、昌、俊、を、以、退、折、し、神、本、代、才、代、才、流
、憤、り、。、美、を、行、せ、し、。、別、當、兼、忠、本、作、と、昌、俊、を、捕、り、大、把、次、郎、美
、平、以、取、り、。、後、美、平、と、親、く、あり。、大、把、昌、俊、を、後、倉、小、具、り、て、松、羽、小、具、に、
、し、心

○周云、法師、高、松、下、系、に、折、言、文、社、と、云、あり。、修、り、て、佐、友、房、昌、俊、を、祀、り、す、
、云、。、倒、年、十、月、廿、日、折、言、文、社、に、て、社、は、流、る、者、多、し、。、是、も、水、の、多、く、小、河、久、信、
、灯、籠、を、と、り、て、飛、を、は、し、且、拍、り、て、拍、り、云、。、佐、友、房、昌、俊、の、飯、を、く、取、り、
、文、書、一、紙、半、より、強、く、は、し、。、小、倉、久、信、の、安、く、買、り、お、店、の、利、を、得、り、
、事、り、。、小、倉、久、信、を、金、買、り、飛、り、。、買、り、代、り、又、人、は、當、心、の、折、言、文、社、に、



清水寺

園中の人物は古風の極あり
 微細あり
 故は其一二の泉と
 別よと

繪師
 梅本陸
 林吉信

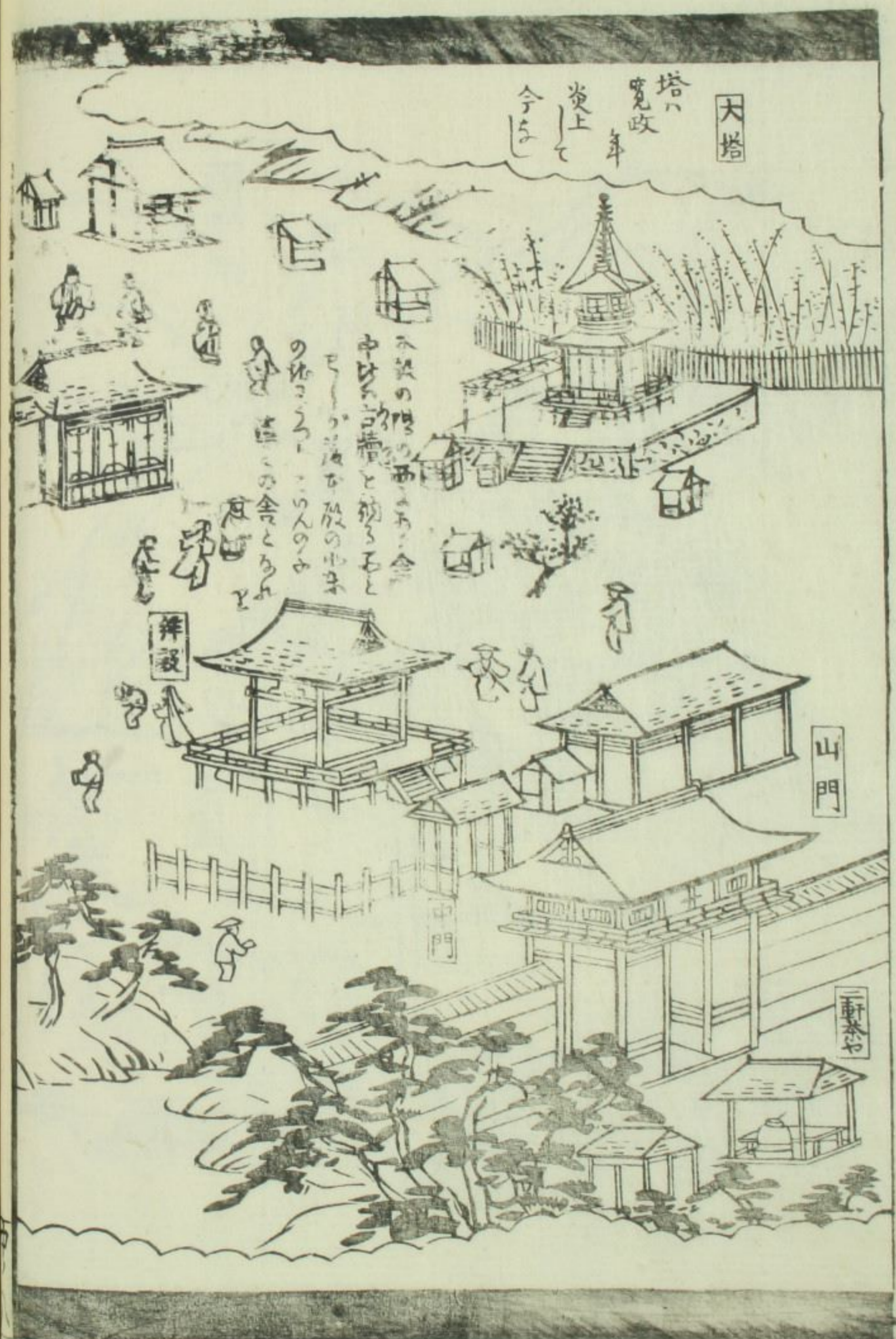
園云豊之福新と今一の地小枝なる時をいふとて一面の形あり。
 其の形も六条縁起一面上人の徳氏又々ふ縁所の小西は四十八箇
 あり無をあり。又今の四条を場より一面上人は浴の作群とせり
 其東加茂川小架以格りるよ水の多井あり。其紙廻社一の多井
 あり。今其法内縁河小標本とて六月紙をまに新竹と建ること
 一乃る井の
 透廊あり

園中サ之居の作四条街小側小之櫓南側小之櫓北小之櫓の
 是櫓の幕も名代の後を付るハ其北之居より東に北に二櫓の
 齊の頂も園の如く四条に五櫓あり。其後退くハ減くを以て六小側小
 二櫓南側小一櫓ありしが寛政六年焼失の後も南北二櫓とあり。繩
 多はサ之居も寛保元年此焼失より絶り
 園云古くは乃りぐくは桑街小之櫓五ヶ所繩小之櫓二ヶ所又四条小橋
 中寄町の南側小一ヶ所北側西二櫓北角一ヶ所を載るも桑街の人
 形芝居は雨除きなとあり。又宝曆七八年の火もよるは四条の
 角小一ヶ所ありけり
 堂八九年やて絶り



本殿

山門
中門
山門
中門
山門
中門



大塔

塔の
寛政
炎上
今迄

此塔の塔の西の角に
中門の跡と初る石と
ありては、人の
のたつら、人の
のたつら、人の
のたつら、人の

神設

山門

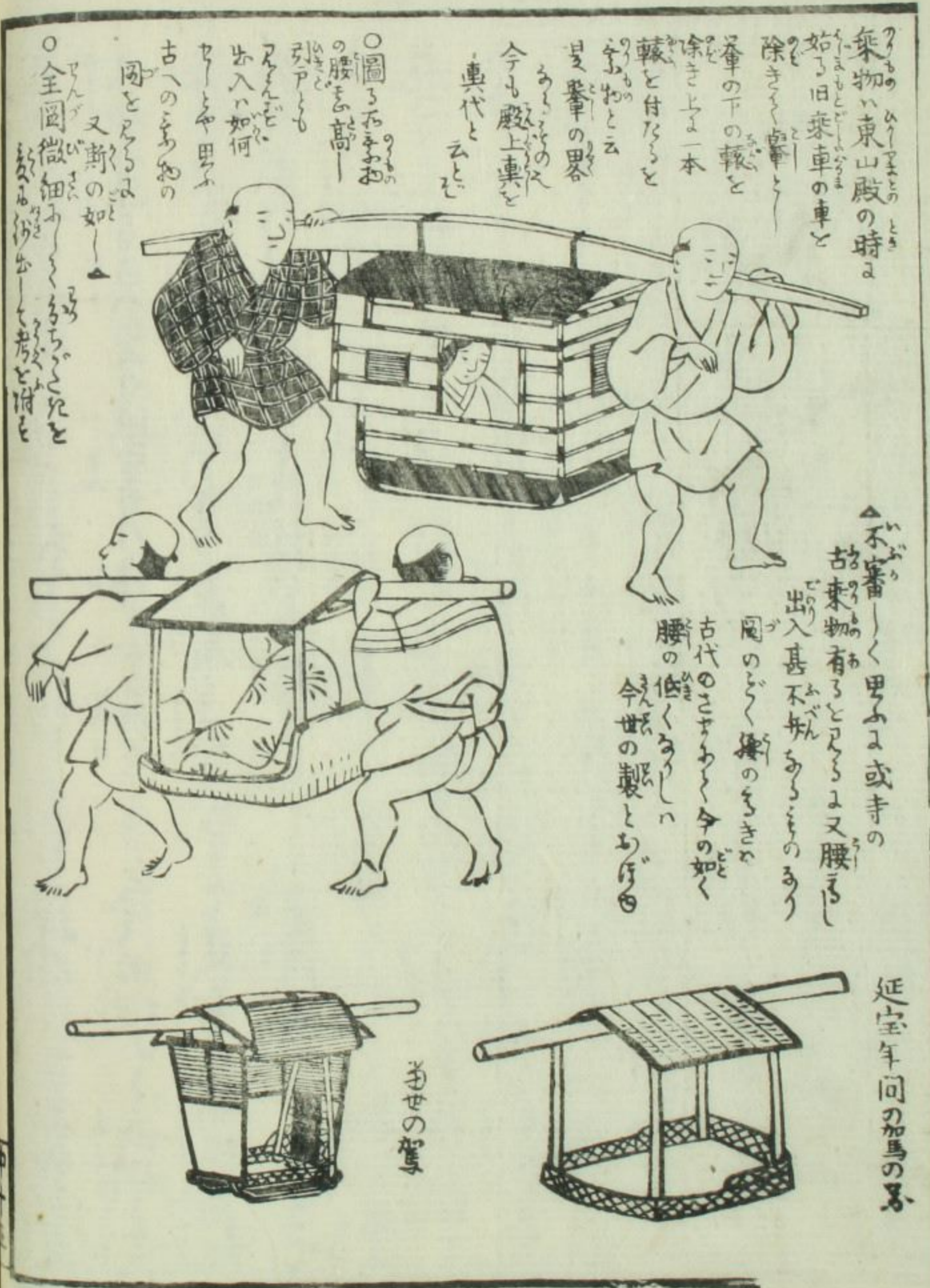
軒茶



此の兒はさうけたる日傘を古
 乳母と持てるもの者なり
 見よ此の如き日傘とて
 かけさせし是とお乳母
 日傘とて重く石とて
 多し其地ぬめぬい
 きの繪とてさたり
 寛水の桶の縁より
 ぬれ
 地
 朱土三三白

此の傘は
 享保の頃まで
 あつて是を
 西川祐信が
 代見美おもてえたり

三弦の海老尾
 今と異なり
 下の巻
 代
 今
 代
 見
 美
 おも
 て
 え
 たり

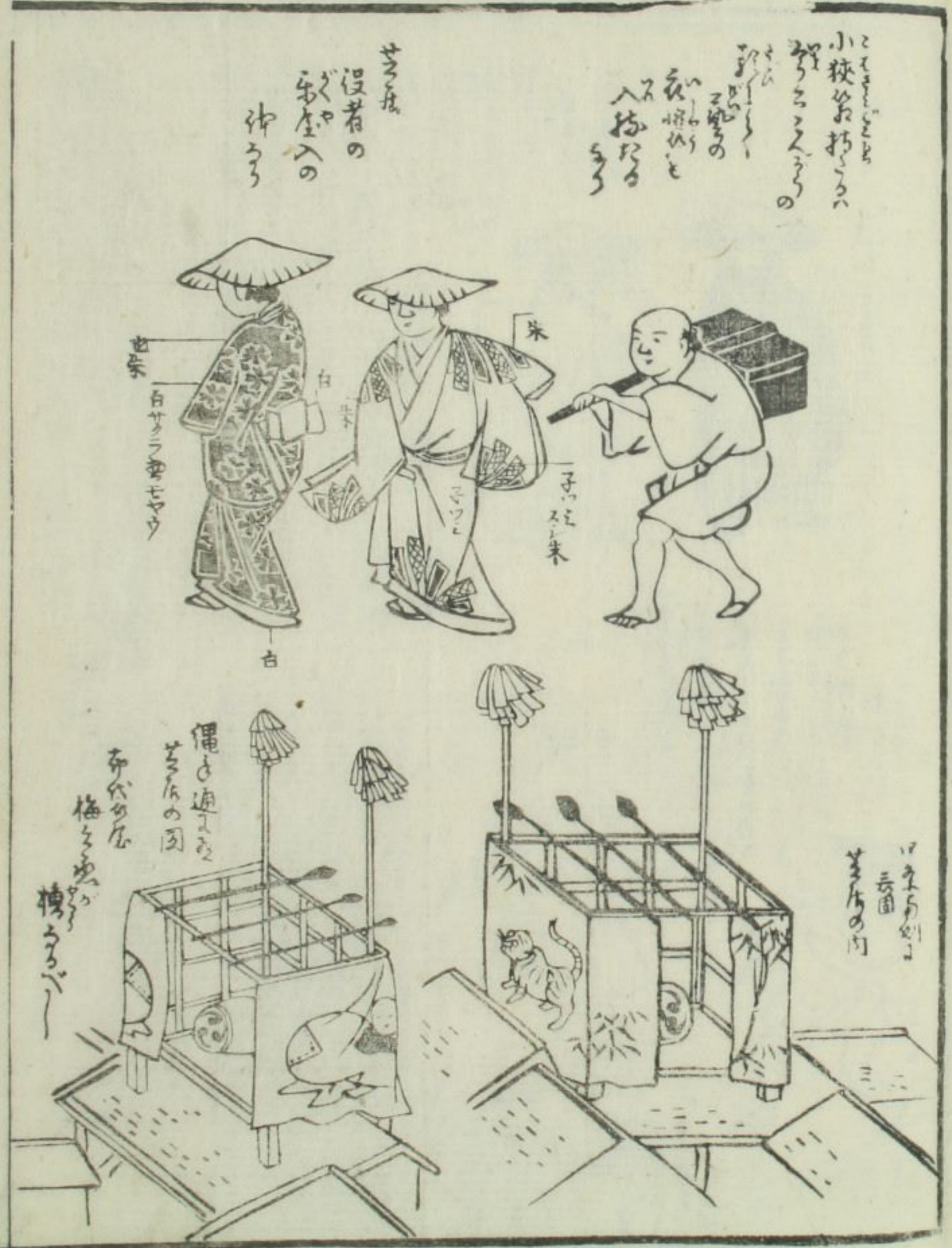
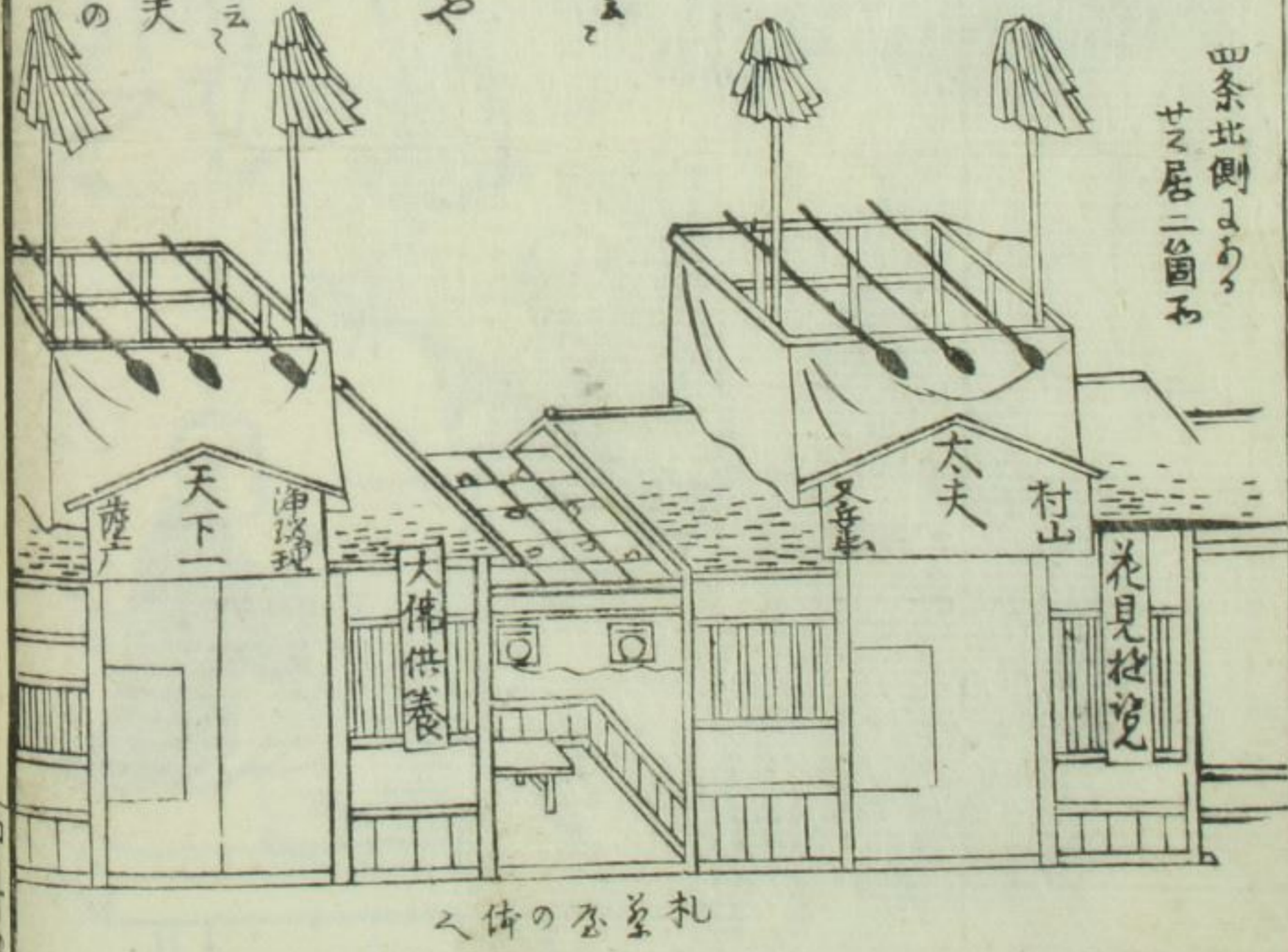


乗物い東山殿の時
 始る旧乗車の車と
 除きく車と
 傘の下の轆と
 余さし一本
 轆と付たりと
 手物と云
 是轆の畧
 今も殿上真と
 真代と
 云と
 〇圖ろおまお
 の腰ま高
 引アも
 入ん
 入ん如何
 入んや思ふ
 古へのまおの
 圖と云
 又斯の如
 〇全圖微細
 なるゆか
 たる付と

不審く思ふ或寺の
 古乗物有ると云ふ又腰
 出入甚不辨あるものあり
 圖のどく轆のまき
 古代のさしあし今の如く
 腰の低くし
 今世の製とちげ

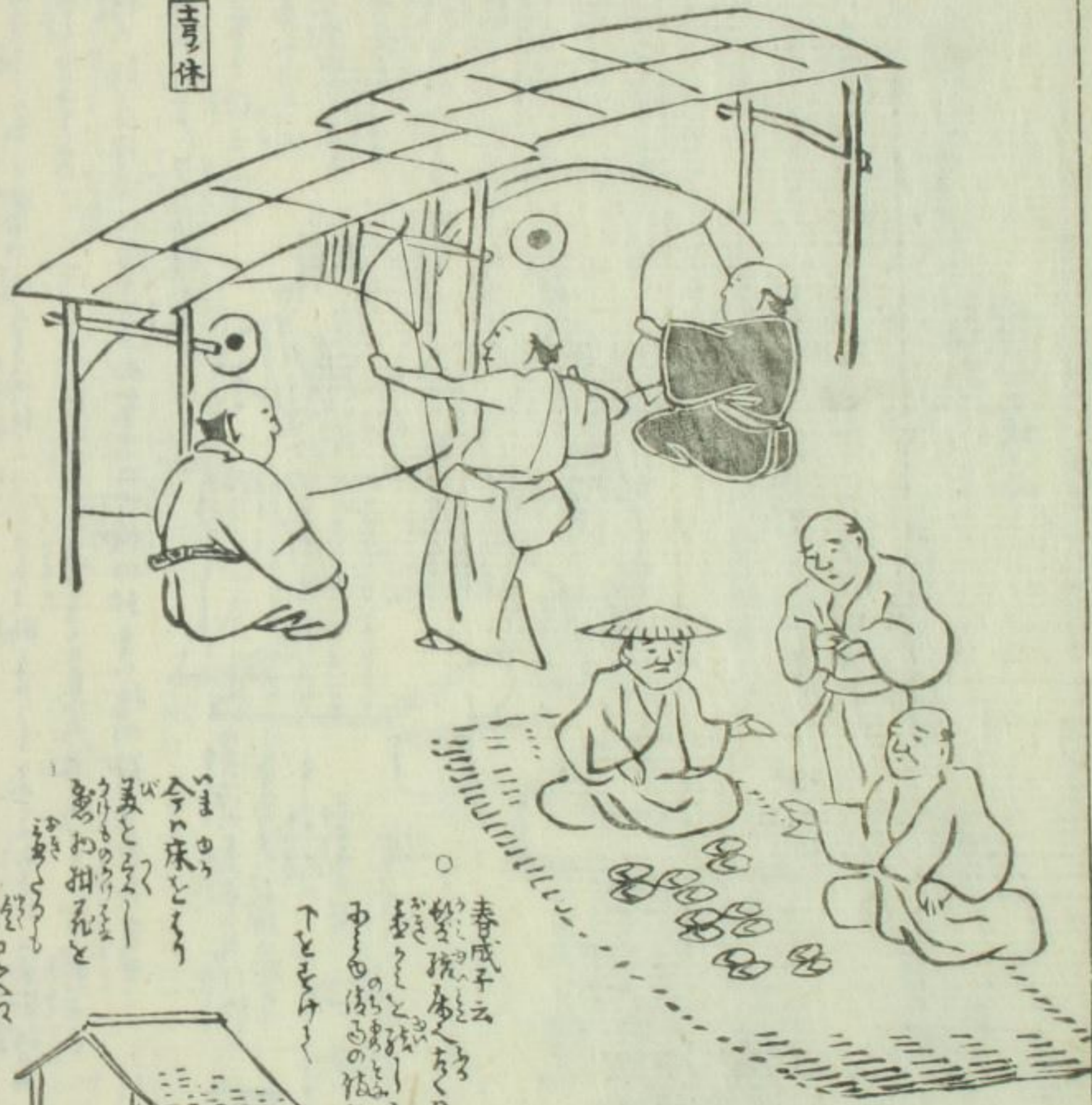
延宝年間の加馬の車
 お世の駕

〇りちや子え戲場のまきよ天下てあり
 侍河増のりく鎖の各り
 眞心大鑑云々後松山氏
 美事魚元平の夏江チウリ
 多都ふ登り天あも口宣と
 頂載し〜天下一杉山丹後掾
 さらあ清澄とあつる樽あも
 亦あ頂〜肥あ掾とあも
 さらああ〜とあも
 右あ〜又云村山がせあ
 あ〜人ま〜又云村山がせあ
 此筋を未四ああり〜が
 延宝のあ〜大和大海とあ〜
 又云幕に虎の紋と画と〜虎を主あ夫
 三ツ拍を日暮小太夫角の甲あ小のあの
 及び嵐三右信つあ〜

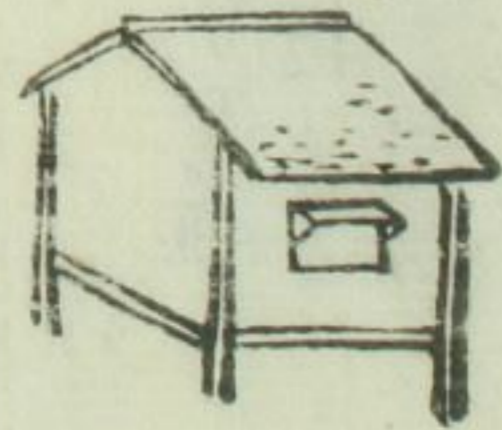
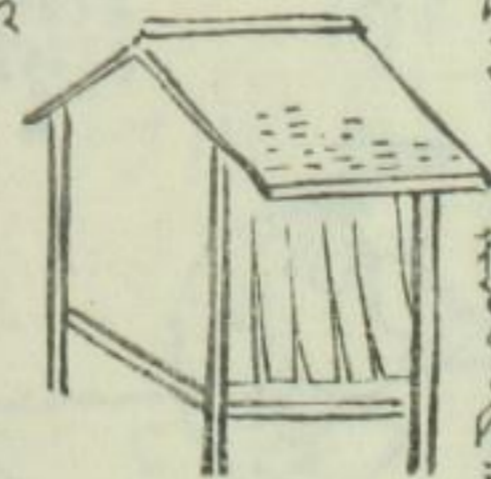


小校おあ〜
 役者の
 秋入の
 仲う

まき床



今の床どう
美と云ふ
物のお掛は
かたじけなく
候なり



春成子云
藝妓は床の
敷物と云ふ
物に古用は
しと云ふは
此の古用の
敷物とは
今迄の敷物
とは異なる
也

延宝の頃の婦人多く編笠竹の皮笠と被り坐の下の下は一切の布を載
其上に笠と被り元祿の末より毛糸の履を穿たり布を穿り付て居る
ゆありも婦人の面とくまん料なるべし今も哥比丘尼此風はくく人も

古の婦人の姿をみると中細く衣服の
靴の中は上の方の履、右の左の履、
左の履ののり、履ののり、人丈と
婦人の蔵儀最新古くさきよと今
の婦人の姿をみると今も婦人の
み返し、中の方の履、九寸の履、
電氣の履、履ののり、履ののり、
春の履、履ののり、履ののり、
己若く衣服は下の方の履、
破く、破く、破く、破く、破く、

履の白と云ふは
形勢不敬なる僧
仙人の天上より
降りて来りて

ちりちり



小屋を連ひるを打撃をなして見物に候ふ事多し。やむらひの
声冷しく侍遊を志すも都の一隅なり。斯く地帯凡姿の時ふ
さすの古に候ひ候ふ事多し。今に候ふ事多し。

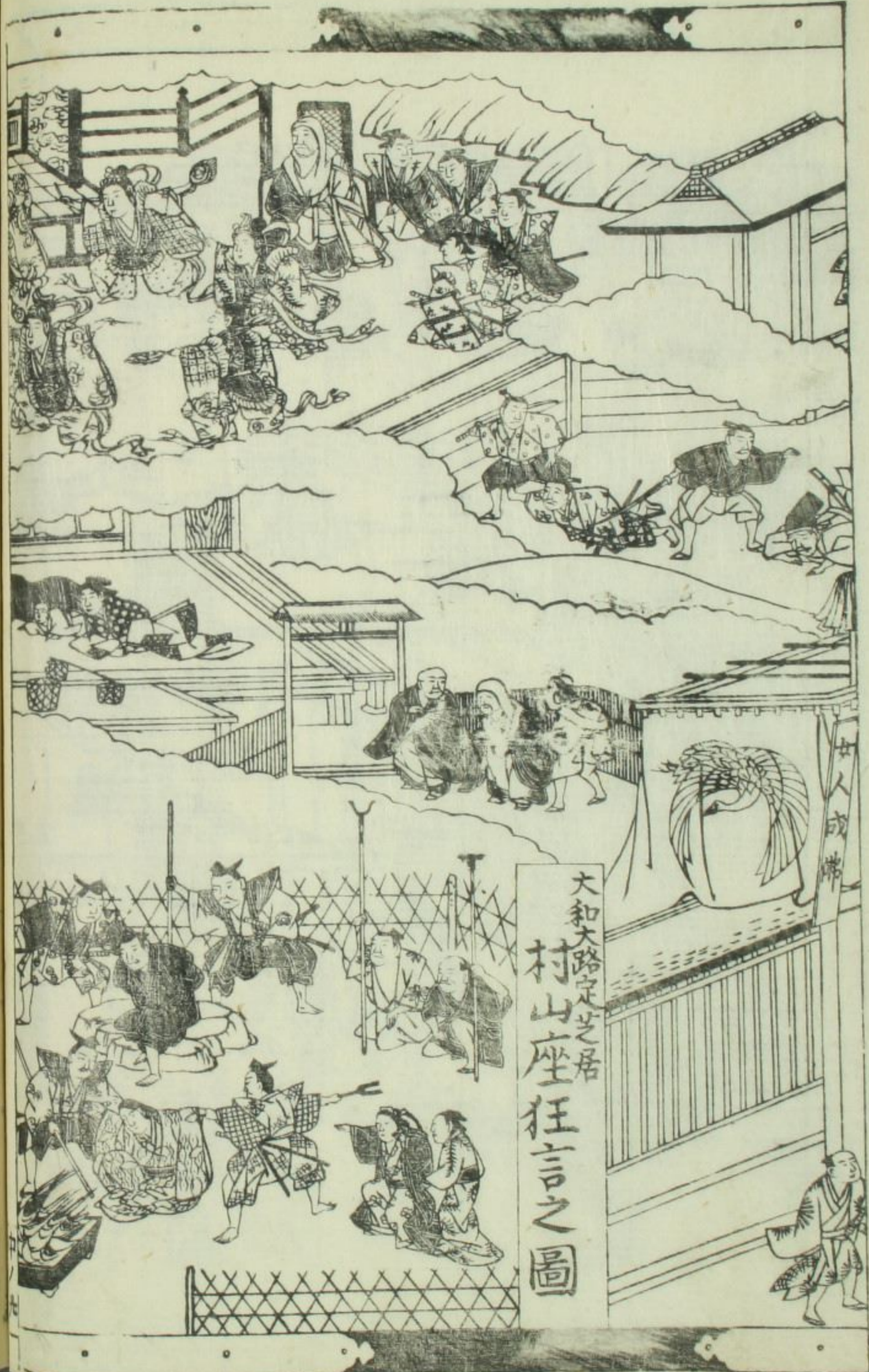
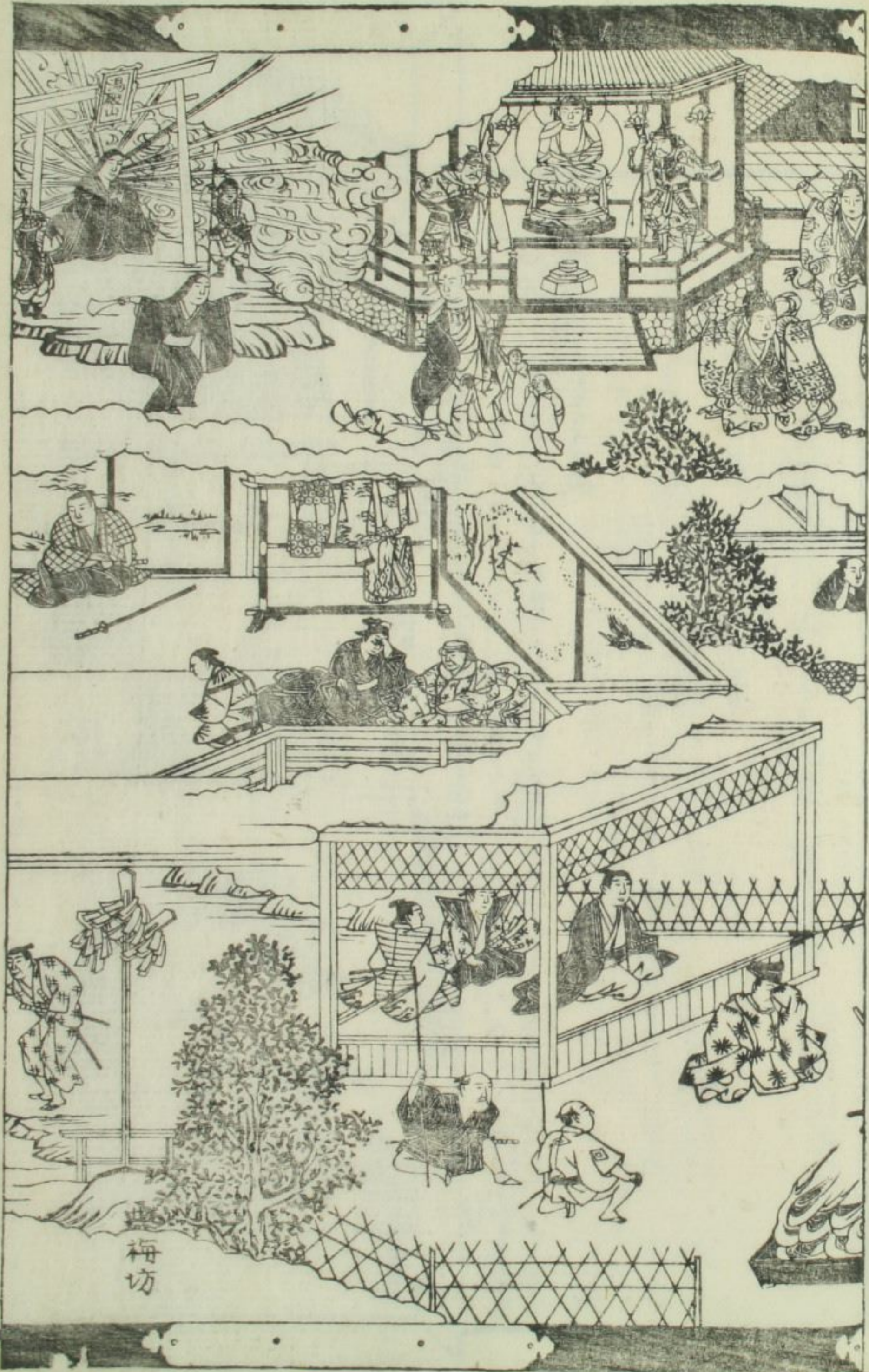
濱東四葉通加茂川より北東知恩院のまゝに至りて都て祇園の法
かして寛文の頃まで農田の地なり

寛文の頃より古くは祇園の西門の辺りに家は建候へり。寛文の頃より古くは祇園の西門の辺りに家は建候へり。寛文の頃より古くは祇園の西門の辺りに家は建候へり。寛文の頃より古くは祇園の西門の辺りに家は建候へり。

其間小農人住む不班な事甚多の名家あり。仲原寺
此所の惣堂あり。常南の近世まで六斎の終りあり。今も
盃を益む此門内は揚燈籠と掲ぐ。是れやうへの遣風なり。其頂まで
四葉通也門あり。今に候ふ事多し。

此堂旧は東小乃川系冷のまがの地あり。今に候ふ事多し。此堂旧は東小乃川系冷のまがの地あり。今に候ふ事多し。此堂旧は東小乃川系冷のまがの地あり。今に候ふ事多し。

一雄の去り候ふ事多し。直大和國への街道は樹を直らう候ふ事多し。直大和國への街道は樹を直らう候ふ事多し。直大和國への街道は樹を直らう候ふ事多し。



安井門あり一町ありに小海ありてふたれ谷川の如く。中より水は流れて
 舟を載せしが今も市中の内より出て各川の舟も入る。舟と繋いで舟
 通の海とらうぬ



天和二年正月廿一日

○大和入踏定芝居湯殿山女人性生礼言文圖

天和二年 日直清親の筆

大和乃頂大和入踏定芝居湯殿山女人性生礼言文圖
 天和二年 日直清親の筆
 大和乃頂大和入踏定芝居湯殿山女人性生礼言文圖
 天和二年 日直清親の筆
 大和乃頂大和入踏定芝居湯殿山女人性生礼言文圖
 天和二年 日直清親の筆



其の如く大和の芝居は立役は佐川主右衛門曰山小太郎と云ふ
 此八景村曰山村太郎と云ふ。後者大和村は山小太郎と云ふ
 十景村曰山村太郎と云ふ。後者大和村は山小太郎と云ふ
 其の如く大和の芝居は立役は佐川主右衛門曰山小太郎と云ふ
 此八景村曰山村太郎と云ふ。後者大和村は山小太郎と云ふ
 十景村曰山村太郎と云ふ。後者大和村は山小太郎と云ふ

紙國社為所指く



出

口舌の
標取の
右左
ふびきの
係存
の申
世ま
名代
怪子
とあり

上
女 堂 百年草

新下直後... (The text is written in vertical columns, starting from the right side of the page and moving left. It appears to be a continuation of a story or a collection of poems related to the 'Onna-do' (Hall of Women) and 'Hyakunenshu' (100 Years of Grass).)

女

三

○寛永五年の附五人の古り五年の

櫓の上をまき教を早末より打鳴して人を振く。中夜まきの見物如きは星根をき

ぬ天晴る時早朝より天候を打く。芝居のほうまは知じは雨あつ日のなまを体すし

活り人出を殺の音は有さふらう一日の陰晴を下げ

○中夜は東小橋中夜は例味の方に小まはあつ。南東探まは風をきし。これ

芝居のまきのあつ。芝居のまきのあつ。芝居のまきのあつ。芝居のまきのあつ。

○大和太鼓芝居の虫馬はあつ。如表は今の侍と異なりあつ。櫓の下板

望み小戸二箇如く没く。是を嵐戸はあつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

紙へ入る侍嵐の空まへ入る。此嵐戸の侍は嵐戸没け。れを法代はあつ。あつ。

印して門は今其れを小腰に印を貼る。徴はあつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

芝居芝居と云

○後小園よりあつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

と記あり。れと看板とあつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

彩。トヤとあつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

○今芝居をあつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

○寛永年中芝居は七箇の櫓は免さる。名代都す芝早雲長を

芝居芝居と云。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。

元禄七歲甲戌九月吉日
 奉掛御宿
 志げ花
 松山



六方よりふみ姉。まうき流き舞妓小慈容凛々後舞氏六方と傳ふ
 自く舞の一ひたり。奴舞六方以振と云あり。扁額と圓とを名衆の振
 持氏等一青ふ悦巾を纏ひ萬痛華彩の依及く一衣衣衣を着し草履
 の地敷多く用文箱と持ひ氏振の侍侍方志げ花と紀し奴舞振ふらう
 銀々の振山志げ花と云元禄の頃此等舞妓衆六方の慈容と云て
 己と云し氏馬小掲と云のち

○慶長の頃佐渡嶋に國舞女氏衆をたけ
 女舞を温吹き事まきしとて寛永年中女舞舞妓を止らば元禄
 舞妓といひしぬり凡の流り女舞減せむをいひ笑少平の赤額の髪を
 利也頂の上お洋髪をも先紙指をのりし清足を野郎と云
 ○漢主に勾欄の及者成戲子ども男倡も云野郎と治郎たり李白ら
 採蓮曲に岸上誰家遊冶郎と他たり。女の形乃如く坊う歌家と云

延享三丙寅年秋九月下浣

大坂

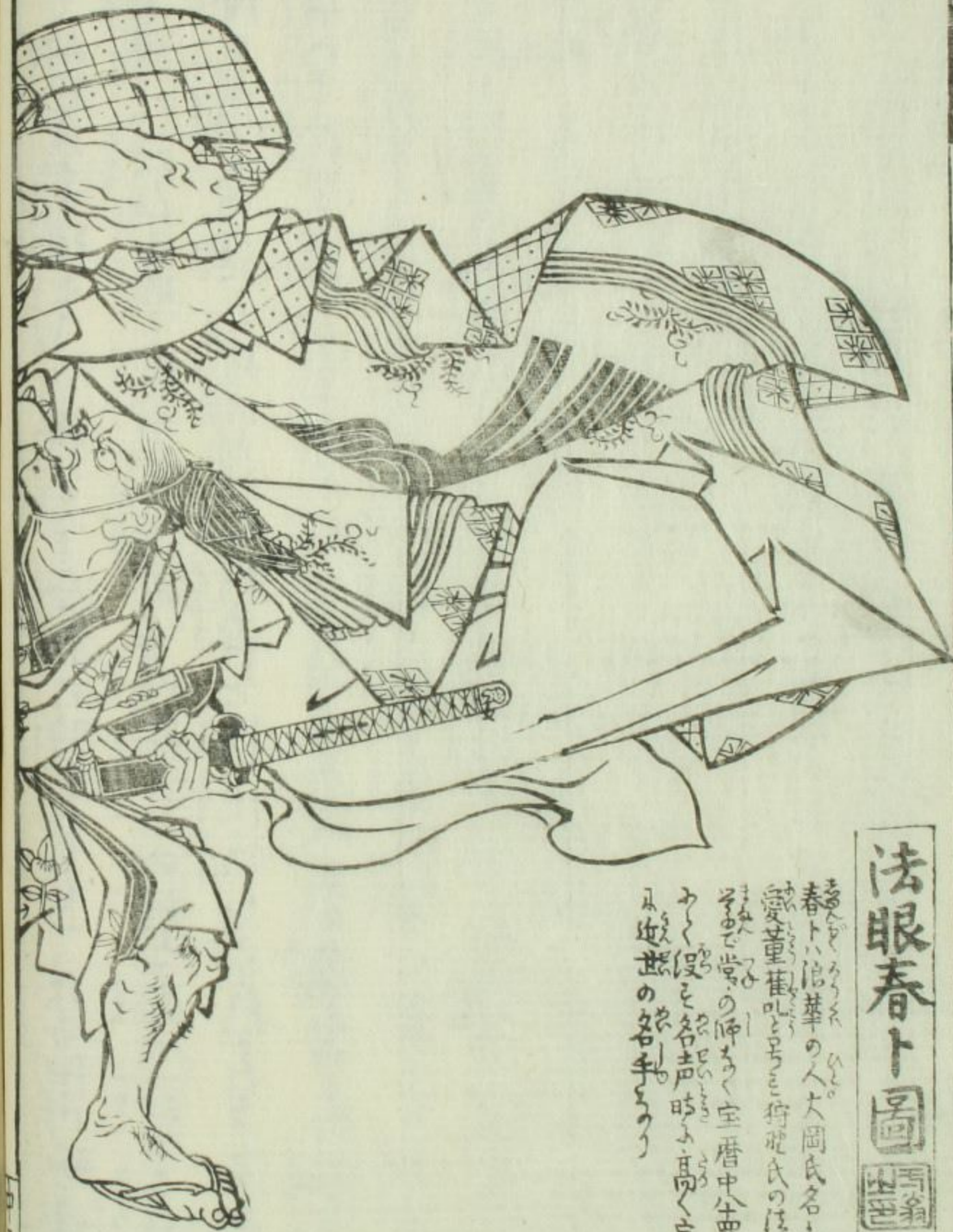
願主中村七良兵衛

宿坊
成就院



法眼春卜圖

春卜ハ法華の人々大岡氏名々
愛重権助と申す符號氏のはと
そがで堂の師と申す宝曆中牛馬殿
やくはと名起の時より高くと
ふ遊世の名手と云ふ



がたは付て歩ひるゝ女。いふはさういふ人として行根を於境と見
て。た七怖へは。恐もあまう。深き道は。あまう。女は。背ふお
負ふ。さ。町斗。行。さ。信。の。月。暗。さ。ふ。さ。ら。も。谷。路。を。女。傲。の。長
八。人。計。の。鬼。女。に。ま。ま。の。眼。を。後。の。面。に。洒。が。さ。ら。は。ま。耳。ま。ぞ。別。家。あ。ま
南。生。ま。た。車。大。盤。石。の。ま。ま。さ。ら。た。七。が。髪。は。掘。ん。と。虚。空。ま。ま。た。は。は
別。の。ま。た。を。得。ら。と。ま。ま。と。組。ま。ま。い。深。田。う。中。一。将。び。病。に。生。け。ま。の。を。組
満。ち。う。を。呼。り。ま。ま。は。は。ま。ま。ら。ら。ら。ら。都。智。大。小。神。を。長。刀。を。因。り。て。地
ま。ま。内。に。由。を。捨。清。や。う。に。ま。ま。ら。ま。ま。 以上を事記 大ま

扁額軌範三之巻終

